

2008年 7月 30日発行

③ 178票差！

今月13日、8年ぶりの新座市長選挙が行われました。現職市長が178票差という僅差で、田中ゆきひろ候補を破り5選を果たしました。16年前「3期12年」を公約として当選した須田市長の5期20年がスタートしたのです。それと同時に「もうほっとけない！」の田中ゆきひろ陣営も4年後に向けてスタートを切りました。4年後に市長が交代したとしても、現市長と同じ「しがらみ」が応援する候補では、「しがらみ構造」は変わりません。それが今、スタートする理由です。今回の選挙の投票率は34%。市民生活に一番影響の大きな選挙の投票率とは思えないほど低いものでした。あと1%いや0.5%の上がっていれば…ああ選挙権がもったいない！！

③ change!

14日(月)の夜、キムタクのChangeの最終回を見ました。朝倉総理はテレビの中でこう言いました。「みなさんには本物の政治家を選ぶ権利と義務があるんです」私利私欲に走らず、約束を守り国民と同じ目線に立って、動ける政治家、働ける政治家、それを国会に送り出せるのは、みなさんなんです。「あなたの一票は政治を、この世の中を変えることができる。」と。そして朝倉総理はこうも言いました。「この解散は、子供たちに希望のある未来を用意するための解散です。」と。新座市民は4年に一度の解散のチャンスを逃しました。現職市長の力は凄かった。多選の逆風を見事に跳ね返しました。流石に自民・公明のチームワークです。それに民主の票も流れたのだからしょうがありません。そして大型事業のツケはやがてきます。財政破綻するかもしれない。それでもいつかChangeする日は来ます。子供たちに希望ある未来を用意するために、僕もそう信じて、また歩き始めようと思います。田中ゆきひろと、田中ゆきひろの仲間と一緒に…。

③ 市長選挙裏話 1

今回の市長選で僕が一番驚いたのは民主党の動きです。田中ゆきひろは民主党員です。当然、民主党はゆきひろを「推薦」するものだと思っていました。市民の感覚からするとそうなのです。ところが民主党埼玉第四区総支部は田中ゆきひろを推薦しませんでした。支部長の神風代議士は結局一週間の選挙戦で一度も「応援」に来ることはなかったのです。枝野さんや山根さん、そして末松さんといった他地区の民主党の国会議員や市議会議員が応援に来たのにです。神風代議士の後援会の大半が須田市長の「選対」にいたとしても、それはそれです。民主党の代表として「推薦」をすべきだったし、「応援」すべきだった。僕はそう思います。新座市議会では「刷新の会」も分裂しての選挙となりました。平松代表は完全中立、民主党の中村・佐原・柴崎議員は田中ゆきひろ。そして島田くによ議員は須田市長の応援と三つに分かれての選挙になったのです。結果的に178票の差だったのですから、神風代議士と刷新の会が今回の選挙の鍵を握っていたことは確かです。民主党の推薦があれば、共産党との連立も可能だったのですから、ことは重大です。市議会議員でも国会議員でも市長でも、選挙に出る目的は市(国)をよくしていくことでなければいけません。選挙に「当選」することが「目的」では市民はガッカリです。



応援にかけつけてくれた枝野さんとゆきひろ。